

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成30年8月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】機械工業が持ち直しの動きを牽引

○製造業は、主要産業の鉱工業生産指数は機械工業が牽引し、底堅く推移している。増収傾向を示すヒアリングも多く聞かれ、貿易摩擦が懸念されるも、足元では好調な輸出を維持している。しかし、原料や燃料の価格高騰分の製品価格転嫁が進まず、利益率の圧迫が懸念される企業も多い。

【地場産業】厳しい状況が継続している

○地場産業は、消費の縮小や販売先の減少に加え、原料や燃料の価格高騰による収益圧迫の影響から、全体的に厳しい状況が継続している。

【設備投資】一部には投資姿勢に慎重な企業も見られる

○設備投資は、人手不足を補うための合理化や省力化については意欲的な企業が多く見られる。しかし、設備投資意欲DIは下降傾向にあり、先行きの不安定な状況により、増産に向けての投資は好調な企業に限られ、一部の企業は慎重な姿勢を取っている。

【個人消費】全体的に緩やかな回復に留まっている

○個人消費は、ドラッグストアが引き続き好調なのに加え、百貨店・スーパーの売上高が7ヶ月ぶりに増加に転じた。当月は猛暑による客足の低下を示すヒアリングが多く聞かれたが、飲料等一部の商品に需要の高まりがあった。

【観光】宿泊客数、観光客数ともに前年同月比を下回った

○観光は、7月豪雨や台風、猛暑等天候に恵まれなかったほか、日の並びの関係で休日の日数が1日少なく、観光客数、宿泊客数ともに前年同月を下回った。

【資金繰り】良好な資金繰り環境の一方、小規模企業には厳しい状況が継続

○企業の資金繰りは、金融機関貸出残高は引き続き増加傾向にあり、業績好調な企業にとっては資金繰りに問題なく、借入環境にも変化は見られない。一方で、小規模企業では収益圧迫等を背景に、資金繰りは依然として厳しい状況にある。

【雇用】雇用情勢の改善とともに、人手不足の状態が継続している

○雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする一方で、県内中小企業にとっては、業種を問わず、人材確保の厳しさから人手不足が慢性化している。また、それに伴い、急速な受注拡大に対する人手確保に苦慮している企業も見られる。